

整理番号C-2710E ユーゲン
 株式会社ユーホーニイタカ

作成日： 2012年11月21日
 改訂日： 2016年5月17日

安全データシート(製品安全データシート)

【1. 化学物質等及び会社情報】

製品名	ユーゲン
会社名	株式会社ユーホーニイタカ
住所	〒300-2521 茨城県常総市大生郷町6136番地7
電話番号	0297-24-2535
FAX番号	0297-24-2537
担当部門	本社工場
緊急連絡電話番号	0297-44-4038

【2. 危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性	金属腐食性物質 区分1
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵およびミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分2（全身毒性）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性（急性）	区分1
水生環境有害性（慢性）	区分1
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

金属腐食のおそれ
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 重篤な眼の損傷

	呼吸器への刺激のおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (全身毒性) 水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
注意書き	
[予防策]:	他の容器に移し替えないこと。 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。 耐腐食性容器に保管すること。 ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないこと、避けること。 取扱い後は手をよく洗うこと。 保護手袋/保護眼鏡を着用すること。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 漏出物を回収すること。
[対応]:	ミスト/蒸気/スプレーを吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に連絡すること。 皮膚(または毛)に付着した場合: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
[保管]:	施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
[廃棄]:	内容物/容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

【3. 組成、成分情報】

単一製品、混合物の区別	混合物
成分	次亜塩素酸ナトリウム(有効塩素濃度 6.0~7.0%、工場出荷時) 水

【4. 応急措置】

吸入した場合	万一、有害な塩素ガスを吸い込んだ場合には、直ちに患者を風通しのよい場所に避難させ、安静にした後、直ちに医師の診断を受ける。 手当てが遅れると生命にかかわる。
皮膚に付着した場合	液が皮膚に付いた場合、直ちに多量の水で十分に洗い流す。

目に入った場合	<p>液が付着した衣服や靴は直ちに脱ぐ。</p> <p>速やかに医師の診断を受ける。</p> <p>手当てが遅れると炎症を起こす恐れがある。</p> <p>液が付着した衣服や靴は、よく洗ってから着用する。</p> <p>目に入った場合、直ちに流水で15分以上洗い流す。</p> <p>コンタクトレンズは外す。速やかに医師の診断を受ける。</p> <p>手当てが遅れると失明する恐れがある。</p>
飲み込んだ場合	<p>飲み込んだ場合、直ちに口をすすがせて多量の水を飲ませる。</p> <p>意識のない場合には、口から何も与えない。無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。濃い液を多量に飲み込んだ場合、手当てが遅れると生命にかかわる。</p>
その他	<p>使用中、目にしみたり、せき込んだり、気分が悪くなった場合には、使用をやめてその場から離れ、洗眼、うがいをする。</p>
医師に対する特別な注意事項	<p>本製品のガスを吸入したものは、安静にさせ、その経過を観察しなければならない。</p>

【5. 火災時の措置】

消火剤	<p>粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水</p> <p>この製品自体は、燃焼しない。</p>
使ってはならない消火剤	知見なし
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。周囲の設備等に散水して冷却する。

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	<p>作業の際には、必ず保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、ゴム長靴等)を着用する。</p> <p>屋内の場合、作業が終わるまで十分に換気を行う。</p> <p>多量の場合、人を安全に退避させる。</p>
環境に対する注意事項	<p>流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。</p> <p>大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。</p> <p>漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。</p> <p>悪臭又は刺激性が強いため、周辺の住民に漏洩の生じたことを通報する等の適切な措置を行う。</p>
封じ込め及び浄化の方法・機材	<p>少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。</p> <p>多量の場合は、周囲への流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。酸と接触すると、塩素ガスを発生するため、中和などで酸を使用しない。</p>

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策	取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。 保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
局所排気・全体換気	換気を良くして使用することが望ましい。
注意事項	なし
安全取扱い注意事項	取扱い後は手・顔等を十分に洗い、うがいをする。 酸性の製品との接触を避ける。酸性の製品と接触すると、塩素ガスを発生する。 酸性タイプのアルコール製剤との接触を避ける。 酸性タイプのアルコール製剤と接触すると、塩素ガスを発生する。
保管	
適切な保管条件	密栓した容器に保管する。 施錠して保管する。 直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。 他のものと混同しないように保管する。 酸性物質と一緒に保管しない。
安全な容器包装材料	他の容器に移し替える場合は、当社指定の専用容器を使用する。 (商品名、使用方法、注意事項を明記した専用容器)

【8. 暴露防止及び保護措置】

管理濃度	設定されていない。
許容濃度	知見なし
参考として「塩素」の許容濃度を以下に示す。	
	ACGIH(TLV) TWA 0.5 ppm 1.5 mg/m ³
	STEL 1 ppm 2.9 mg/m ³
	OSHA (PEL) TWA 0.5 ppm 1.5 mg/m ³ (刺激性)
	STEL 1 ppm 3 mg/m ³
	日本産業衛生学会 1 ppm 2.9 mg/m ³
	TWA : 時間加重平均
	STEL : 短時間暴露限界
設備対策	換気扇等を使用する。
保護具:	
呼吸器の保護具	必要に応じてマスクなどを着用
手の保護具	ゴム手袋
目の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	保護衣

【9. 物理的及び化学的性質】

外観	淡黄色透明な液体
臭い	特有な刺激臭
pH	9.70-10.70 (1%水溶液、25℃)
融点・凝固点	知見なし

沸点、初留点と沸騰範囲	知見なし
引火点	なし
自然発火温度	なし
燃焼又は爆発範囲の上限／下限	なし
蒸気圧	知見なし
蒸気密度	知見なし
比重（相対密度）	1.074 g/cm ³ (25℃)
溶解性	水と任意の割合で混合
オクタノール／水分配係数	知見なし
分解温度	室温でも徐々に分解する。高温ほど分解しやすい。

【10. 安定性及び反応性】

安定性	空気、熱、光、金属などにきわめて不安定である。 放置すると徐々に有効塩素を失う。
危険有害反応可能性	塩素系の為、酸性物質や酸性タイプのアルコール製剤と接触すると有毒な塩素ガスが発生する。 アルミニウム、すず、亜鉛等の金属を腐食して水素ガスを発生する。
避けるべき条件	酸性物質、酸性タイプのアルコール製剤との接触。 高温での放置。
混触危険物質	アルミニウム、亜鉛、コバルト、ニッケル、銅などの金属及びその塩類との接触
危険有害な分解生成物	塩素ガス

【11. 有害性情報】

皮膚腐食性	皮膚を侵し、放置した場合、皮膚の深部に達しやけどとなる。
目腐食性	結膜や角膜が侵され、発赤、痛みを感じ、失明する可能性がある。
刺激性(目、皮膚)	刺激性あり
急性毒性	マウス、経口 LD ₅₀ = 雄 6.8 mL/kg (有効塩素10%) 雌 5.8mL/kg (有効塩素10%) 幼児経口致死量 15～30 mL (5%液)
亜急性毒性	F-344ラットに飲料水として投与した場合、2週間の投与で0.25%以上の濃度群において、又、13週間の投与では0.2%以上で、著しい体重抑制が見られた。

【12. 環境影響情報】

分解性	水中で徐々に分解する
-----	------------

【13. 廃棄上の注意】

【7. 取扱い及び保管上の注意】を参照する。
内容物を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄する。
使い終わった容器は、よく洗ってから処理する。

【14. 輸送上の注意】

国内規制	適用法令の定めるところに従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	直射日光を避け、高温のところに置かない。 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、 損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
緊急時応急措置指針番号	154

【15. 適用法令】

労働安全衛生法第57条の2第1項の政令で定めるもの

なし

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律で定めるもの

なし

食品衛生法	食品添加物
毒物及び劇物取締法	該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（特別管理産業廃棄物）	該当しない
有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律	該当しない
化審法	該当しない
消防法	該当しない

【16. その他】

記載内容の問い合わせ先

会社名	株式会社ユーホーニイタカ
住所	〒300-2521 茨城県常総市大生郷町6136番地7
担当部門	本社工場
電話番号	0297-44-4038
FAX番号	0297-24-2537

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。
また、記載事項は通常の実用を前提としたものであるため、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。
なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。